

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(触診)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

1. 解剖・運動の知識を身に付ける。筋の触診技術の向上
2. 実技を通して基本的な触診技術を身につけ、実際の臨床に活かせるようになる

●構造 structure

【人数、配置】

触診コアグループ:PT3名 OT1名

リーダー 川上(PT/入所)
高野(PT/入所)
西川(PT/デイ)
佐伯(OT/入所)

【量】

月2回:計15回

※月2回未実施の場合もあり

【物品】 骨模型、プラットフォーム、クッション、スタンダード車椅子、タブレット

参考文献:基礎運動学、筋骨格系のキネシオロジー、動作分析、整形外科運動療法ナビゲーション等

●過程 process

5月:年間目標の設定①解剖・運動の知識を身に付ける。筋の触診技術の向上

②実技を通して基本的な触診技術を身につけ、実際の臨床に活かせるようになる

6月:筋の構造、触診の座学・実技

7月:腸骨筋、大腰筋の触診・筋力増強訓練

8月:ベッド上引き上げ動作、車いす-ベッド間移乗の練習

9月:車いす-ベッド間移乗の練習、環境設定

10月:ハムストリングス、大腿四頭筋の触診

11月:足関節の動かし方、足根骨の触診

12月:手関節の動かし方、手根骨の触診

1月:研修会の準備、話し合い

2月:立位の姿勢評価・治療、コアカリキュラム研修会発表(立位姿勢の評価と治療)

3月:年間業績発表

●結果 outcome

- ・基本的動作の介助方法を学び臨床に生かすことが出来た
- ・新人の臨床で困っていることを聞き出し、実技を通じて臨床に活かした
- ・筋肉の走行や形状を触診を通して学ぶことが出来た
- ・研修会を通して他セラピストの視点や、治療技術を学ぶことが出来た
- ・各々意見を出し合い治療方法や触診技術を共有することで臨床で利用者に還元出来た
- ・新たにタブレット(アトラス)アプリで進めることで、より精密に触診を学んだ

《次年度持ち越し課題》

- ・触診技術向上、解剖・運動・生理学等の基礎知識の補充
- ・触診ハンドブックの完成、その活用